

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2370200418
法人名	有限会社 ハッピートクガワ
事業所名	グループホーム ちから館とくがわ
訪問調査日	平成20年7月25日
評価確定日	平成20年8月22日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2370200418
法人名	有限会社 ハッピートクガワ
事業所名	グループホーム ちから館とくがわ
所在地	名古屋市東区相生町16-1 (電話) 052-935-7355

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年7月25日	評価確定日	平成20年8月22日

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年6月20日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	19 人	常勤 12人, 非常勤 7人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	35,350 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(500,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成20年7月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名	
要介護1	3名	要介護2	5名			
要介護3	3名	要介護4	4名			
要介護5	2名	要支援2	0名			
年齢	平均	84 歳	最低	67 歳	最高	94 歳
協力医療機関名	名古屋通信病院・徳川皮フ科内科クリニック・紘仁病院					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東区は尾張徳川家の菩提寺である建中寺をはじめ徳川家に繋がる寺院や由緒ある神社、仏閣が多い歴史の町である。昔ながらの商店も多く、馴染みの関係ができており、声をかけてもらったり、おすそ分けをいただくこともある。また、ホームの隣には公園があり四季を感じることができる。職員の年齢層には幅があり、チームワークも良い。職員は入居者から学び、共に支え合い、助け合い喜怒哀楽を共にしながら生活している。家族との連携を図り、地域からも理解や協力を得て、安心して生活できる環境を提供している。法人の代表が医師であるため、職員は入居者の健康管理を確実に行之、本人にとっては健康への安心感となり、同時に家族にとっても安心につながっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では特に改善事項としてはあげられていないが、職員間での話し合いにより設備面で手すりの増加や、前回の家族アンケートの結果を受けホーム便りと共に担当者が入居者の様子を記した手紙を送付している。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	管理者は、評価に対して自然体の姿を見てもらい、課題が見つければ改善していけばよいと捉えている。自己評価は全職員が取り組み、自己評価するなかで、できている点やできていない点などを改めて確認することができた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	メンバーとして入居者家族をはじめ、地域の役員の方々も参加しており、ホームへの理解も深く、地域の情報やアドバイスをいただけるなど心強い協力者である。地域との交流の場として、コミュニティーセンターを紹介してもらい、クラブ活動に入居者が参加している。家族会に運営推進会議のメンバーが参加したこともあり、入居者との交流もある。会議は、地域の理解と支援を得る場であり、地域の一人としてホームの関わり方を学ぶよい機会となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年2回、家族会を開催しており、半年間の行事、会計報告をしている。家族会の後には入居者と一緒に食事を摂ったり、おやつを食べるなど、入居者も楽しみにしている。入居者と職員の関係を実際に見てもらえる機会であり、家族会を通して家族間の親しみも出て、意見や要望などを聴取する大切な機会として捉えている。家族から出た意見や要望は必要に応じて会議で職員と話し合い検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	コミュニティーセンターのクラブに入居者が参加しており、裁縫や料理など地域のお年寄りと一緒に様々な活動をしている。また、学生ボランティアが月1回訪問し、入居者と一緒にカレンダーを作っている。そのほかにも傾聴ボランティアの訪問もある。地域の協力を得て、回覧板を使ってホームの様子を地域の方々に伝えており、日常的に地域のお店を利用していることから、馴染みの関係や理解、協力も得られている。ホームの夏祭りには毎年近所の方にも参加を呼びかけている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生きがい、安らぎ、ふれ合い、信頼、安心」を法人の理念としている。開設当初につくられた理念であり、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える地域密着型サービスとしての役割を反映した理念になっている。今後は、理念を職員と一緒に見直してみることも検討している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はパンフレットに分かりやすく明記されている。正職員は理念を理解しているが、パート職員全員が理解しているかは分からない。定期的に話をする機会は設けていないが、日常のケアの中で職員が実践できるよう、管理者をはじめ各階の主任は指導や話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	コミュニティーセンターのクラブに入居者が参加しており、裁縫や料理など地域のお年寄りと一緒に様々な活動をしている。また、学生ボランティアが月1回訪問し、入居者と一緒にカレンダーを作っている。そのほかにも傾聴ボランティアの訪問もある。地域の協力を得て、回覧板を使ってホームの様子を地域の方々に伝えており、日常的に地域のお店を利用していることから、馴染みの関係や理解、協力も得られている。ホームの夏祭りには毎年近所の方にも参加を呼びかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価に対して自然体の姿を見てもらい、課題が見つければ改善していけばよいと捉えている。自己評価は全職員が取り組み、自己評価するなかで、できている点やできていない点などを改めて確認することができた。前回の評価では特に改善事項としてはあげられていないが、職員間での話し合いにより設備面で手すりの増加や、前回の家族アンケートの結果を受けホーム便りと共に担当者が入居者の様子を記した手紙を送付している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーとして入居者家族をはじめ、地域の役員の方々も参加しており、ホームへの理解も深く、地域の情報やアドバイスをいただけるなど心強い協力者である。地域との交流の場として、コミュニティーセンターを紹介してもらい、クラブ活動に入居者が参加している。家族会に運営推進会議のメンバーが参加したこともあり、入居者との交流もある。会議は、地域の理解と支援を得る場であり、地域の一員としてホームの関わり方を学ぶよい機会となっている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政へは手続きなどで訪問することはあるが、積極的に意見や情報を交換するには至っていない。介護保険については、ケアマネジャーが窓口となり、市への問い合わせや対応をしている。今後は、地域包括支援センターとの連携を検討していきたいと考えている。</p>		<p>手続きなどで訪問した際には担当者と話す機会を設けたり、情報を収集するなどホームから積極的に関係づくりに取り組んでいくことを期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪が多く、来訪時には入居者の日々の様子を説明したり、毎月ホーム新聞「ちから館だより」と担当職員が入居者の様子を書いた手紙、金銭報告を家族に送付している。金銭報告は出納帳のコピーを送付しているが、今後は領収書も添えることを検討している。家族との関わりを大切にしたいと、連絡は密にとっている。ホームの行事や家族会への参加も多く、家族アンケートの結果からも良好な関係がうかがえる。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回、家族会を開催しており、半年間の行事、会計報告をしている。家族会の後には入居者と一緒に食事を摂ったり、おやつを食べるなど、入居者も楽しみにしている。入居者と職員の関係を実際に見てもらう機会であり、家族会を通して家族間の親しみも出て、意見や要望などを聴取する大切な機会として捉えている。家族から出た意見や要望は必要に応じて会議で職員と話し合い検討している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に職員はフロアごとに固定されているが、状況に応じて異動することもある。職員の交代による入居者のダメージを防止するため、馴染みの職員がフォローするよう努めている。在職年数の長い職員も多い。入居者や家族への報告については特に取り決めはなく、フロアごとに異なっている。</p>		<p>職員の異動については、家族としても知りたい情報である。また、入居者にとってはダメージに繋がることもあるが、状況に応じた説明を検討されることを期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で勉強会が開催され、業者によるオムツの勉強会やケアプランの勉強会など知識の習得を図っている。職員の中に看護師がおり、会議の折に指導してもらうこともある。外部の研修に参加する機会はあるが、現在は参加が難しく滞っている。研修会に参加した職員は報告書を記入している。		内部の勉強会は取り組んでいることから、今後、外部の研修について、職員の勤務ローテーションなどの日程に配慮し、可能な限り職員に参加の機会をつくり、職員の質の向上を目指す取り組みに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム協議会、名古屋市介護サービス事業者連絡研究会（名介研）に加入していることから、研修の案内がくると可能な限り参加している。同業者との交流の機会は今後の課題としている。		他のホームの職員との交流や意見交換する機会は、新たな気づきや発見につながるから、ホームの状況を考慮しながら、ネットワークの活用や関係づくりに期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には自宅を訪問し、本人の状態や情報を収集している。契約時には、オーナー代理、ホーム長、ケアマネジャー、主任が参加し立ち会っている。体験入居は設けていないが、希望があれば対応することが可能である。入居が決まった後は、ホームに見学に来てもらい、雰囲気を感じてもらおうようお願いしている。また、入居後は家族にできる限り様子を見に来てもらい、本人が安心できる環境づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりの生活歴や生活習慣をまず把握し、理解することを大切にしている。理解し受けとめることによって、職員が気づくことも多く、本人の思いを一番に考えることで、喜怒哀楽を共に感じている。また、園芸、掃除、料理など、入居者が得意とする分野では役割を担ってもらい、力を発揮している。職員が主体ではなく、入居者の目線に合わせ日常生活を共に過ごすよう職員は心がけている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自立度が高く自身の思いや意向を表出できる方もいれば、加齢や認知症の進行により意思表示が難しい方もいる。本人との関わりの中から意向を汲み取ったり、家族の協力も得ながら、本人の意向を把握するよう意識して取り組んでいる。職員と入居者が一対一で話せる機会をできるだけ増やし、言葉に表現できなくても表情から見えてくる少しの変化も見逃さないよう職員は取り組んでいる。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の生活状況や問題点を居室担当者が記録している。また、他の職員も問題点を記録し、それらの意見をふまえ管理者、居室担当者、ケアマネジャー、看護師、職員がカンファレンスで話し合っている。最終的にケアマネジャーが介護計画書を作成し、居室担当者が確認している。家族に対しては入居者の現状、その対応などの説明をして要望も聞いている。また、6カ月に1回、家族にも参加してもらいカンファレンスを実施している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直し期間を短期3カ月、長期6カ月としているが、月1回のカンファレンスで入居者の状態について話し合っている。介護計画を見直す場合には、事前に居室担当者を始め職員から本人の状況や課題についての意見を書き出している。本人、家族の話を聞きながら介護計画を確認していただいております。介護計画は個人のケース記録に挟み、職員がすぐに確認できるようにしている。状態の変化が生じた場合は随時見直しを行っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者の状況を見ながら退院、往診、訪問マッサージを家族の協力を得ながら支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人代表がホームのかかりつけ医であり、往診が月2回実施されている。また、ホーム職員の看護師が日常の健康管理を行い、看護ノートに記録している。眼科や歯科への通院は原則家族にお願いしているが、家族の状況に応じて有料で職員が対応することもある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には入居時に書類による説明は行われている。医療連携体制加算を受けており、法人代表である医師の指示のもと管理者、ケアマネジャー、看護師、職員は話し合っ対応できるようにしている。看取りの経験はまだ無いが、個々のケースにおいて対応もさまざまであることが予想されることから、今後はさらに関係者と話し合いの機会を設け、検討していきたいと考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報に対するマニュアルはないが、介護している（入浴、トイレ誘導など）時点での言葉かけや話題に職員は気を配っている。個人情報の記録は事務所に保管している。		入居者一人ひとりを尊重した介護に努め、言葉かけや対応に配慮している。今後はさらに職員の意識向上を図る機会として、マニュアルなど取り決め事項を作成されることを期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まりなどは設けておらず、フロアごとに特徴が出ている。2階ではグループを作り回想法を行ったり、歌を歌うなど個々ではなくグループでレクリエーションを行うことによって、新たな楽しみや発見、刺激に繋がるよう取り組んでいる。3階の入居者は、読書したり、編み物したり、テレビを見るなど思い思いの時間を過ごしている。晩酌の習慣がある方には、健康に配慮しながら毎日の晩酌を楽しんでもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には入居者の好みも取り入れ、朝食にはパンの日も設けている。パンの訪問販売があり、入居者が自分の好きなパンを選ぶ日もある。3階では、1日のメニューを入居者が書いており、役割となっている。食事の準備から片付けまで、本人のできる範囲で行ってもらっている。月1回、外食しており入居者の楽しみになっている。外食は馴染みの店に多く出かけているが、新しいところにも行きたい要望も出ている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後1:30～5:00としている。日曜日は足浴を行っている。毎日入浴する入居者が多く、入浴を嫌う方でも最低週3回は入浴している。入浴の楽しみとして入浴剤を入れたり季節の菖蒲湯も取り入れている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のできることはできる限り本人に行ってもらえるよう職員は声をかけ、一緒に行っている。多種のボランティア訪問があり、学生とカレンダーと一緒に作っている。また、地域のお年寄りの方との触れ合う機会もある。書道の先生の訪問が毎週あり指導を受けている。展覧会に出品し賞をいただき、廊下に作品と共に掲示してある。外出の機会も大切にしており、月1回の外食や喫茶店などは入居者の楽しみとなっている。家族と一緒に外出する方が多く、外泊される方もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	フロアごとで毎日散歩に出かけている。地域の住民とのふれ合いで花や木の実を頂くこともある。近所の買い物で店主から声をかけてもらい、入居者も会話を楽しんでいる。月1回喫茶店へ出かけたり、花見、年1回の1泊温泉旅行も全員で行く楽しみもある。		家族の訪問が多く、入居者と家族と一緒に外出されることも多い。ホームでも定期的な外出の機会を設けているが、その日の入居者の状況に応じて、希望に添った支援の実施がさらに期待される。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居間は鍵をかけていない。入り口にはセンサーがつけてあり、人の出入りがあると音がなるようになっている。また、転倒の恐れや歩行に注意しなければいけない入居者には、居室の入り口に鈴をつけ、音が鳴ると職員がすぐに対応できるよう、気配りしながら見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、4月、10月に避難訓練を消防署の指導で行っている。4月に実施した訓練には、入居者、職員共に15名ほど参加した。避難経路や場所も確保されており、訓練時には地域住民にも声かけをして協力をお願いしている。1階の倉庫に飲食料は4日分を目安に備えてある。各フロアには防災グッズの備えはされていない。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が入居者の要望も取り入れながら決めている。糖尿病や高血圧の方もいるので、栄養バランスや量に注意している。水分補給は1日1を目安にしている。季節によって増量、夜間には居室へポットを持ち込んで補給に努めている。体重測定は月1回、入浴後実施しているが、状態に応じて毎日や週1回測定している方もあり健康管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きく広く明るい窓際に植物が置かれてある。食堂と居間には2～3人がけの椅子が置いてあり、入居者はテレビを見たり読書をしたり、編み物などを行っている。入り口のカレンダーは学生ボランティアと入居者の協同作品で季節感ある大きなものが貼られている。廊下に入居者が撮影した風景写真やうちに習字で書かれた作品などが飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は窓から緑豊かな公園を見下ろせるところもある。介護ベッドを使用されている部屋もある。家族の写真や花を生けられてあり好みの雑誌、テレビ、馴染みの家具やソファが置かれてあって居心地よく暮らせる居室になっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。